

講義名	社会構造論					授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時間		後期 木曜日 2時限			
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード	

主題と概要
本講義では、まず、社会構造論とは何かを概観し、社会構造をとらえるために社会変動、とくに戦後日本の産業、地域社会、家族の変化について解説する。 つぎに、社会階層について社会学的な視点から理解する。さらに、社会階層と格差の問題について学んだち、格差を構造化するもの、格差とそれを是正する制度や政策と、是正の可能性について理解する。 さらに、社会構造論にとって重要な社会学者の理論を、おもに前半で学んだ事例を用いて理解する。 さいごに、現代社会において社会構造がゆらぎ、問い直される場面について理解しながら、21世紀社会において個人が生きやすい社会になるためにどのような社会変革が必要になるのかを検討し、考察する。 この授業では、授業の理解のためにレジュメだけでなく、補足資料、パワーポイント、ワークシートを用いて講義を行う。理解を深めるために、資料の分析、要約と意見の提示、映像資料の視聴、グループワークを行う。

到達目標
(1)社会構造論と社会階層論の基礎的な考え方、概要について理解し、説明することができる。 (2)社会変動と社会階層の変化の関連について理解し、説明することができる。 (3)社会的格差の内容を知り、その格差を構造化するものと、その問題点と対策について理解し、説明することができる。 (4)上記の能力を用いて、現代社会において社会構造を問い直すような具体例を用いながら、社会構造の問題、社会的格差の問題を検討し、個人の生きやすさと社会構造のあり方について考察することができる。

提出課題
・毎回授業時に作成したワークシート、クリッカー（学習支援システム、(Learning Management System: LMS)のクリッカー機能）による課題を提出してもらう。 ・毎回の課題は300字程度の手数を要する。 ※クリッカーは授業内で情報共有するので個人情報が必要ない内容にとめること。 ※グループディスカッションを行うこともあるが、内容によってはICT等を活用した双方向ディスカッションなどを課す。たとえば、他の受講生のクリッカー内容を共有し、それらの内容について議論しなければならないなど ・不定期に特別課題、小テストを課す。また学びを深め、評価を上げたい学生のために発展課題を課す。 ・授業中半で、中間レポートを課す（授業の進度や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）。中間レポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること（1500字～2000字を予定）。 ・最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること（3000～4000字を予定）。また、最終レポートを提出しない場合は授業を「放棄」したとみなし、単位を認定しない。教員からの指示がない限り、締め切り以降の提出はいっさい認められないので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
毎回の授業課題の講評、質問については、次回もしくは次々回の授業時に学生へ伝える。 授業課題の講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらう。

評価の基準
・平常点55%（講義内の課題、不定期に実施する小テスト55%） ・レポート45%（中間レポートor中間テスト15%、最終レポート30%） ※20分以上の遅刻は欠席扱い。 ※遅刻り、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い。 ※欠席が5回以上になったら単位不認定とする。同様に毎回の課題の未提出が5回以上になった場合も単位不認定とする。 ※欠席は初回した時点で単位不認定。 ①課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合。 ②他学生の課題、クリッカー、レポートをコピーして提出した場合（この場合はコピーしたもの/させたものどちらも不認定）。 ①、②ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー＆ペーストでも単位不認定。

履修にあたっての注意・助言他
・毎回の課題に頑張って取り組むこと。 ・課題の提出、クリッカーの入力を積極的に行うことが評価につながる。課題の未提出が評価にひびくので注意すること。 ・文字数が少ない、授業内容をまったく理解できていない、あきらかに指示した資料を確認していない、いい加減な課題は0点 ・何らかの理由で提出ができない場合は、信ぴょう性書類を用意して必ず締め切り前に教員に連絡をすること。連絡がない場合は受け取らない。 ・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退出など）をする者はその日は欠席扱いとし、退出を指示することがある。 ・各課題、各レポートで盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発覚した時点で単位不認定とする。

教科書				
・歴史と理論からの社会学入門。	木村至聖	2022	2600	9784779516344

参考図書				
・社会学のエッセンス 新版補訂版-- 世の中のおもしろみを見ぬく、	友枝敏雄ほか著	有斐閣	2200	9784641220980
・社会学で書く現代社会のスイッチ、	友枝敏雄ほか編	みらい	2420	9784860154851
・社会学大図鑑、	クリストファー・ソープほか 著／沢田博 訳	三省堂	4620	9784385162379

その他
・講義時に資料とレジュメを配布する。教育支援システムLMSを介して配布することもある。 ・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

授業計画
1 オリエンテーション&社会構造論を学ぶ前に差別と偏見について考える 2 社会構造を問いなおす（1）：社会変動を学ぶ意義：大規模災害と社会構造 3 社会変動（1）：共同体と社会構造 4 構造（1）：社会をモノとしてみる 5 社会構造を問いなおす（2）：社会階層と格差を学ぶ意義：子どもの貧困 6 社会変動（2）：家族、およびジェンダーと社会構造 7 構造（2）：構造と機能というアイデア 8 中間レポート（もしくは中間テスト）、前半まとめ&フィードバック 9 構造論（3）：私たちが生きる近代とは 10 社会階層（1）：不平等と正義：格差の拡大、それとも縮小 11 社会階層（2）：社会階層と社会移動 12 社会学理論の展開（1）複雑な社会をどう捉えるか 13 社会学理論の展開（2）複雑な社会をどう生きるか 14 時事問題から日本社会が抱える構造的問題を考える 15 後半まとめ&フィードバック

授業形態（アクティブ・ラーニング）												
<table><tr><td>ア：PBL（課題解決型学習）</td><td></td><td>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</td></tr><tr><td>○ウ：ディスカッション、ディベート</td><td></td><td>○エ：グループワーク</td></tr><tr><td>オ：プレゼンテーション</td><td></td><td>カ：実習、フィールドワーク</td></tr><tr><td colspan="3">キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</td></tr></table>	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○ウ：ディスカッション、ディベート		○エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）										
○ウ：ディスカッション、ディベート		○エ：グループワーク										
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク										
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）												

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習：指定された参考文献、雑誌、新聞記事などの資料に目を通す（各約30分）。 次回授業の参考文献として指定された資料の配布があった場合は授業までに目を通す。 毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりしてことを予習として課す場合もある（資料はweb上で手に入れられるものにする）。 復習：授業時に配布した資料、授業時聴講にたったノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文章化してノートに200字程度書くこと（各30～1時間程度）。不定期であるが宿題が課されたら、その作業をすること（30分～1時間程度）。 中間レポート、最終レポートはともに作成のための資料収集、レポート作成作業に5時間以上は要するので、そのつもりでとりかかこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
(1) この科目は、社会構造論、社会変動、とくに産業、地域、家族の変化、社会階層、社会的格差について知ること、また、社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働きに関わる専門的な知識を知ること、社会の仕組みや働き、さまざまなところからの社会における役割や意義を理解する。 (2) これらの理解を通して、現代社会において個人が生きやすい社会になるために、社会構造上の問題の解決のために必要なことは何かを考える能力を培うことができる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
提出された課題やクリッカーの内容について授業内で講評や解説を行う。 LMSやクリッカーを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。 受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。 Teamsを用いて課題、連絡の提示、学生間のディスカッションをすることがある。

実務経験の有無及び活用

備考
やむを得ない欠席の場合の対応について 1) やむを得なく欠席した授業実施後2週間以内に連絡すること。事前にわかっているのは事前連絡が望ましい。 2) 対応方法、提出が必要な課題や書類、課題締め切りを教員から指示する。 3) 連絡後でも構わないので教員指定の立場と信ぴょう性書類も提出すること。 4) 指定された締め切りまでに課題を提出すること。 ★病欠で追加課題が提出できるのは、診断書等の信ぴょう性書類の提出ができる場合のみです。